

ごあいさつ

ご案内のように、当社は東レエンジニアリング株式会社の関西における関係会社で、東レ・東レエンジニアリンググループの一員であり、機械・電気・計装のプロフェッショナル技術・技能集団です。生産・物流などの各分野のプラントはもとより、環境、社会インフラなどの各種プロジェクトにも取り組んでおります。そして、IT関連分野など新たな分野へも拡大の速度を緩めることなく、東レグループにおいて培ってきた技術・技能を更に高め、柔軟な発想と技術力で、お客様ニーズに即した提案型ビジネスを展開しております。

当社の従業員の大半は、東レ滋賀事業場内に職場を置いていることから、環境保全・改善活動についても東レ滋賀事業場の進める活動に同歩調で取り組みを行っています。

ここに示した種々のデータは、東レ滋賀に報告しているそのものです。東レエンジニアリング西日本株式会社は、東レグループの一員として大津市と結んだ環境保全協定の実施に向け、今後ともたゆまない努力を続けることとお約束致します。

東レエンジニアリング西日本株式会社
社 長

環境方針

【環境理念】

安全・防災・環境保全・衛生・健康・倫理を事業活動の最優先課題として、社会と社員の安全と健康および資源を守り地球環境保全に努めます。

【環境保全方針】

1. 大津市環境基本計画に基づき、共生、循環、健康、快適、協働の基本目標を達成すべく、環境保全活動方針・計画を明確にし、環境の維持・保全に努めます。
2. 環境関連の法規制を遵守し、自主的に保全・改善活動に取り組みます。
3. 水質汚濁物質の流出防止および大気汚染物質の排出防止を徹底します。
4. 廃棄物の削減、リサイクル化の促進、省エネルギーへの取り組み等環境負荷の低減に努力します。
5. 臭気・振動・騒音等を防止し、地域環境を守ります。
6. 上記項目の実現のため、環境目的および目標を設定し、かつ、全従業員が事業者・市民としての責任と役割を自覚し、共通の目標を達成するために継続的な活動を推進いたします。

2001年2月26日制定

会社概要

社 名：東レエンジニアリング西日本株式会社

設 立：1973年9月6日

資本金：80百万円

本 社：〒520-0832

滋賀県大津市粟津町1番24号

TEL 077-534-0956

FAX 077-534-4693

株 主：東レエンジニアリング株式会社

東洋電機株式会社

代表者：代表取締役社長 大坪 伸光

許可業種：

特定建設業 特-02第18627号

機械器具設置工事業・管工事業・電気工事

業

一般建設業 般-02第18627号

消防施設工事業

事業内容

□プラントエンジニアリング

□設備保全

□部品製作

□制御盤設計製作

機械・電気・計測・プラント・各種工事の設計施工管理、
設備・機器のメンテナンス、機器・制御盤の設計・製作・据付

2019年度 環境保全活動

I. 2019年度 東レエンジニアリング西日本（株）環境マネジメントプログラム

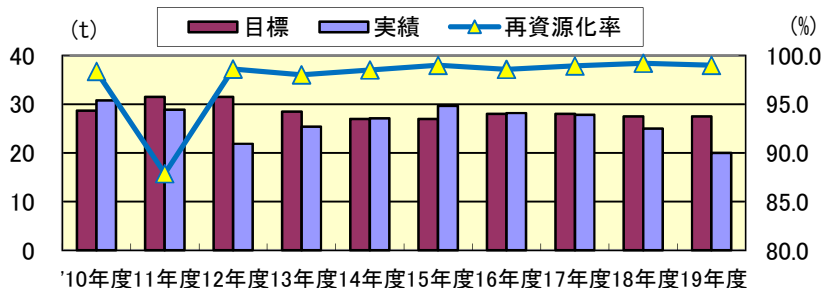
2019年度 関西ディーイーケー(株)環境マネジメントプログラム

2019.5.22																			
環境目的		環境目標	達成基準 (達成度)	方針・施策 (手段・方法)	目標達成のための必要条件 (要員・設備・資金等)	スケジュール												達成予定 年月	実行責任者
番号						上期						下期							
						4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1	廃棄物の排出により生じる環境影響の最小化	1) 総廃棄物量の削減 (再資源化を含む)	27.5 t/年以下を目標 (前年目標/廃棄実績: (27.5 t/25.1 t))	・削減計画の周知徹底とフォロー ・購入品の梱包資材返却の推進 ・産業廃棄物の取扱いと処分の徹底	・分別の再徹底 ・分別パトロールの定期的実施 ・定期的な報告とフォロー強化	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
		2) 再資源化の推進 (ビオリミテーションの継続)	再資源化率: 99.0%以上 (前年実績: 98.9%) ※紙類の再資源化率: 100% 単純処分率: 1.0%以下 (前年目標/単純処分率実績: 1.0%以下/0.01%)	・ゴミ分別の再徹底 ・再資源化物の拡大検討 ・茶かす、吸殻の水きり廃棄の徹底	・分別の再徹底 ・分別パトロールの定期的実施 ・定期的な報告とフォロー強化														
		3) 紙類の削減	13.0 t/年以下を目標 (前年目標/廃棄実績: 13.0 t/13.5 t))	・紙の両面利用の徹底 ・裏紙の印刷時の使用推進 ・電子データ処理の推進	・定期的な報告とフォロー強化														
2	省エネルギーの推進による地球温暖化防止	エネルギー消費量の削減の推進 (電力、燃料等)	A. 電力消費量: 210,000kwh以下にする。 (前年実績: 210,012kwh) B. ガソリン使用量: 18,000L/年以下 (前年実績: 16,690L)	・削減計画の周知徹底とフォロー ・冷暖房の温度管理徹底 ・不用時、照明の消灯の徹底 ・太陽光発電の維持管理 ・タクト「ス」の励行 ・公共交通機関の利用促進	・定期的な報告とフォロー強化 ・職場パトロール時の チェック強化	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
3	法遵守の継続及び環境異常発生 の未然防止	環境異常発生ゼロ (異常排水流出防止)	重大トラブル0件 軽度トラブル0件 フロン漏洩事故0件	・教育訓練による意識アップ ・一般排水経路のチェック ・工事保安対策会議の充実 ・改正フロン法による業務用 エアコンの管理徹底	・環境教育の計画の推進 ・環境設備点検の完全実施 ・定期的なフォロー実施 ・業務用エアコンの簡易点検を 1回/3ヶ月実施 ・7.5kw以上の定期点検を 1回/3年実施	△													
4	環境側面 に対する取組み	建屋周辺の美化推進	4回/年以上の実施	・除草およびゴミ拾い ・強調月間を設定	・部会別で実施														
立案																	承認		
安全管理部長																	承認		
																	業務部長		

本報票で記載不十分の場合にはA4補助用紙で添付して補足すること。

II. 2019年度環境保全活動結果

1. 廃棄物総排出量の削減

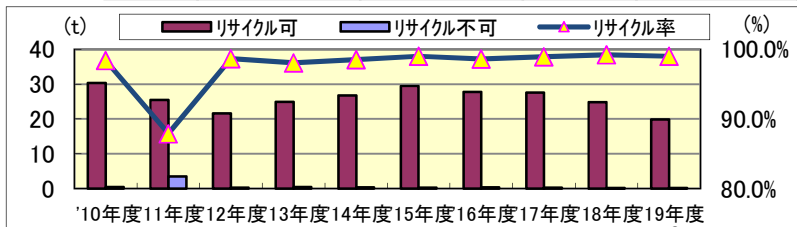


総排出量 実績: 20.0t/年 (目標: 27.5t/年以下)
再資源化率 実績: 99.0% (目標: 99.0%以上)

一内訳一

総排出量

	リサイクル可	リサイクル不可	リサイクル率	総排出量
'10年度	30.3	0.5	98.4%	30.8
'11年度	25.4	3.5	87.9%	28.9
'12年度	21.6	0.3	98.6%	21.9
'13年度	24.9	0.5	98.0%	25.4
'14年度	26.7	0.4	98.5%	27.1
'15年度	29.4	0.3	99.0%	29.7
'16年度	27.8	0.4	98.6%	28.2
'17年度	27.5	0.3	98.9%	27.8
'18年度	24.8	0.2	99.2%	25.0
'19年度	19.8	0.2	99.0%	20.0
増減量	-5.0	-	-0.2%	-5.0



目標達成のために

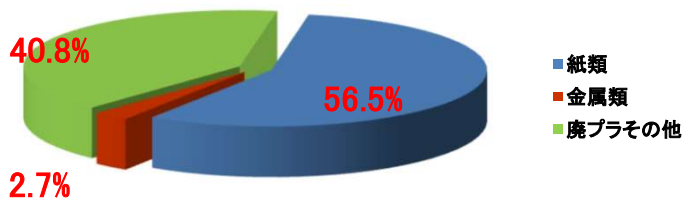
- 2019年度削減計画のPR
- 購入品の梱包資材返却
- 3R活動の推進とPR
- 分別パトロールの強化
- 活動データの見える化

当社の事業形態から受注量と共に紙類・金属類・廃プラ等々の廃棄物の排出量が増減することで、環境保全活動に大きく反映します。その現象が現れた2010年度には、総排出量(目標:28.7t/年以下 ⇒ 実績:30.8t)と目標に対し大きく増加した結果でした。

そのような現状を分析し、次年度以降は目標達成するため、TPMの初期清掃活動(3S活動)を実施し、日常において、廃棄物の分別を徹底した「見える化活動」を図り、更に廃棄物削減の意識向上を促すことにより、当初目標に対し、実績は目標より減少化しました。しかし、毎年度の結果推移から減少は継続的でない。要因分析すると再資源化への取組み不足が挙げられ、夫々が分別の徹底意識により、2019年度の実績は、総排出量の目標27.5t以下に対し20.0tと目標を達成した。

しかし、廃棄物の内訳(次ページ)でも判るように当社の場合、廃プラ類が大半を占め、続きリサイクル可能な紙を機密書類に分類し、溶解処理を行っている。廃プラと紙をを如何に再資源化するかが、私達の環境保全活動の課題と言える。

廃棄物の内訳



2019年度も全社的に3R運動

- ・ Reduce : 削減
- ・ Reuse : 再利用
- ・ Recycle : 再資源

の推進を掲げ、積極的に活動を展開し、廃棄物の排出量削減と再資源化に努力していく。

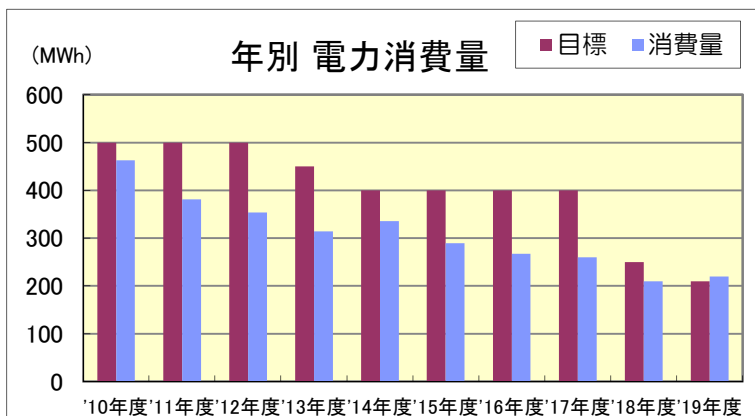
2019年度 紙リサイクル率：94.1%

紙類の廃棄目標値を13.0t以下に設定し、実績は10.7tで目標達成となった。要因は、業務改善を目的に3S活動を各職場で活動展開した結果と思われる。しかしながら不要な書類・機密書類削減の課題を残す。2020年度は、見直しを実施し目標を継続する具体的方策を設定した活動を進める。

2. 省エネルギーの推進

地球温暖化防止の観点から燃料消費を削減し、省エネ活動を展開した。
また、2014年10月から本社の屋上に太陽光パネル（発電出力 10kW）を設置し、自然エネルギーの利用を進め、2019年度は10,695kWhの発電量になった。

1) 電力消費量



目標達成のために

- 冷暖房の温度管理強化
- 不用時のS/W OFF化の再徹底と実施
- 時間外業務の削減（働き方改革対応）
- 照明設備のLED化推進
- 公共交通機関の利用促進
- 経済速度での運行

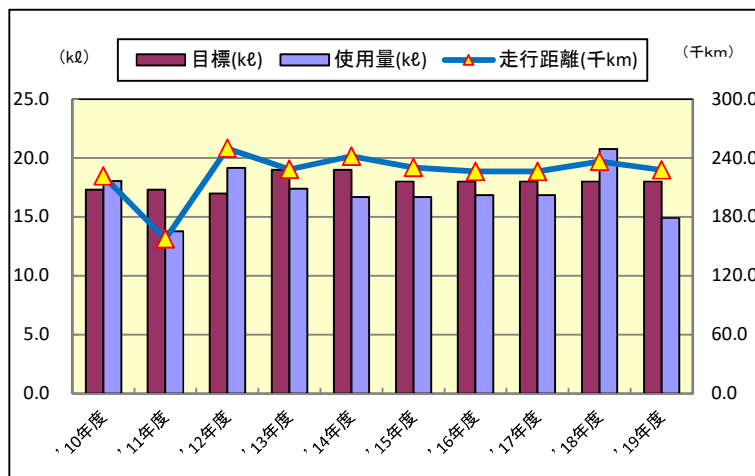
当社は省エネ法（重油換算：1,500kℓ以上）の対象外ではあるが、平素から不用時の電源OFF化や昼休み時間の消灯、空調の温度管理・時間外業務の削減等、管理強化を図り、社員一人ひとりが意識して行動することで節電に努めている。電力消費量は2010年度463MWhをピークに減少傾向です。2019年度は、2018年の本社ビル建替えに伴い本社ビルの電力使用量が前年度より若干増加。目標210MWh以下に対して220.0MWhと目標を未達となった。

2020年度は全社でクールビズ、ウォームビズ、クールジョイスを励行し冷暖房の温度管理を強化、照明のLED化等、夫々が省エネルギー意識を高めて、電力消費量削減に努めていく。

2019年度は、年度初から受注拡大に向け営業活動を積極的に進める中、社用車の利用や台数も増え、活動が活発になってきたが、前年実績を超えないように目標（18.0kℓ）と定め、省エネ走行や近距離は、公共交通機関を利用する運動等を展開し社用車を使用する社員一人ひとりが省エネを考え、エコドライブに努める等積極的に取組んだ。

その結果、目標18.0kℓに対して14.9kℓとなり、目標を達成した。2020年度も前年度実績以下で推移するよう利用者に再度PRし努力していく。

2) 燃料消費量と走行距離



3. 環境苦情件数の削減

1) 環境に関する苦情件数のゼロ化

重大トラブル 0件
軽度トラブル 0件

と目標は達成できた。引き続き苦情件数“0”を目標に努力する。

2) 工場周辺の美化推進 建屋周りの除草およびゴミ拾い。

目標達成のために

- 教育訓練による意識アップ
- 建屋排水の排水経路確認
- 環境負荷に対するリスクPR（整備不良による油漏れ等）